

# 阿 蘇 山

## 1 火山活動度レベル

火山活動度レベルは 1 (静穏な火山活動)でした。

## 2 概 況

火山性連続微動の振幅は小さく、火口内で土砂噴出の発生もなく、火山活動は静穏な状態で経過しています。火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

## 3 噴煙活動の状況(図 1)

噴煙活動は静穏な状態で経過しています。

- ・噴煙は白色・ごく少量で噴煙の高さは概ね 200m で推移し、その最高は 400m で変化は認められませんでした。

## 4 地震・微動活動の状況(図 1、図 3、図 4)

2 月 23 日 06 時 20 分に発生した阿蘇山付近を震源とする地震(M1.5)により、阿蘇山測候所(南阿蘇村中松)で震度 1 を観測しましたが、火山活動に特段の変化はありませんでした。この付近で震度 1 以上の地震が発生したのは、2003 年 11 月 21 日の地震(M1.3、最大震度 1)以来でした。

- ・火山性地震の月回数は 372 回(1 月:239 回)とでした。
- ・火山性地震の震源は、これまでと大きな変化はなく、中岳第一火口付近のごく浅いところに求まりました。
- ・孤立型微動の月回数は 1,490 回(1 月:1,834 回)でした。
- ・火山性連続微動の振幅は小さな状態で経過しました。

## 5 火口や噴気地帯の状況(図 1、図 2)

中岳第一火口の湯だまりの表面温度は、昨年 11 月 8 日以降 60 前後とやや低くなり、土砂噴出の発生もなく、静穏な状態で経過しています。

- ・湯だまりの表面温度は 58~63 とやや低い状態で推移しました。
- ・湯だまりの量は約 8 割で経過し、湯だまりの色は緑色でした。
- ・湯だまり内で噴湯現象を観測しましたが、土砂噴出の発生はありませんでした。  
(温度測定は、赤外放射温度計による)

## 6 地殻変動の状況(図 5)

GPS による地殻変動の連続観測では、火山活動に起因する変化はありませんでした。

## 7 地磁気全磁力の状況(図 6 ~ 7)

気象庁地磁気観測所による全磁力連続観測では、火山活動に伴う地磁気全磁力の変化は認められませんでした。

---

資料作成に当たっては、気象庁のデータの他、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所、阿蘇火山博物館のデータを使用しています。また、地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平 17 総使、第 503 号)。

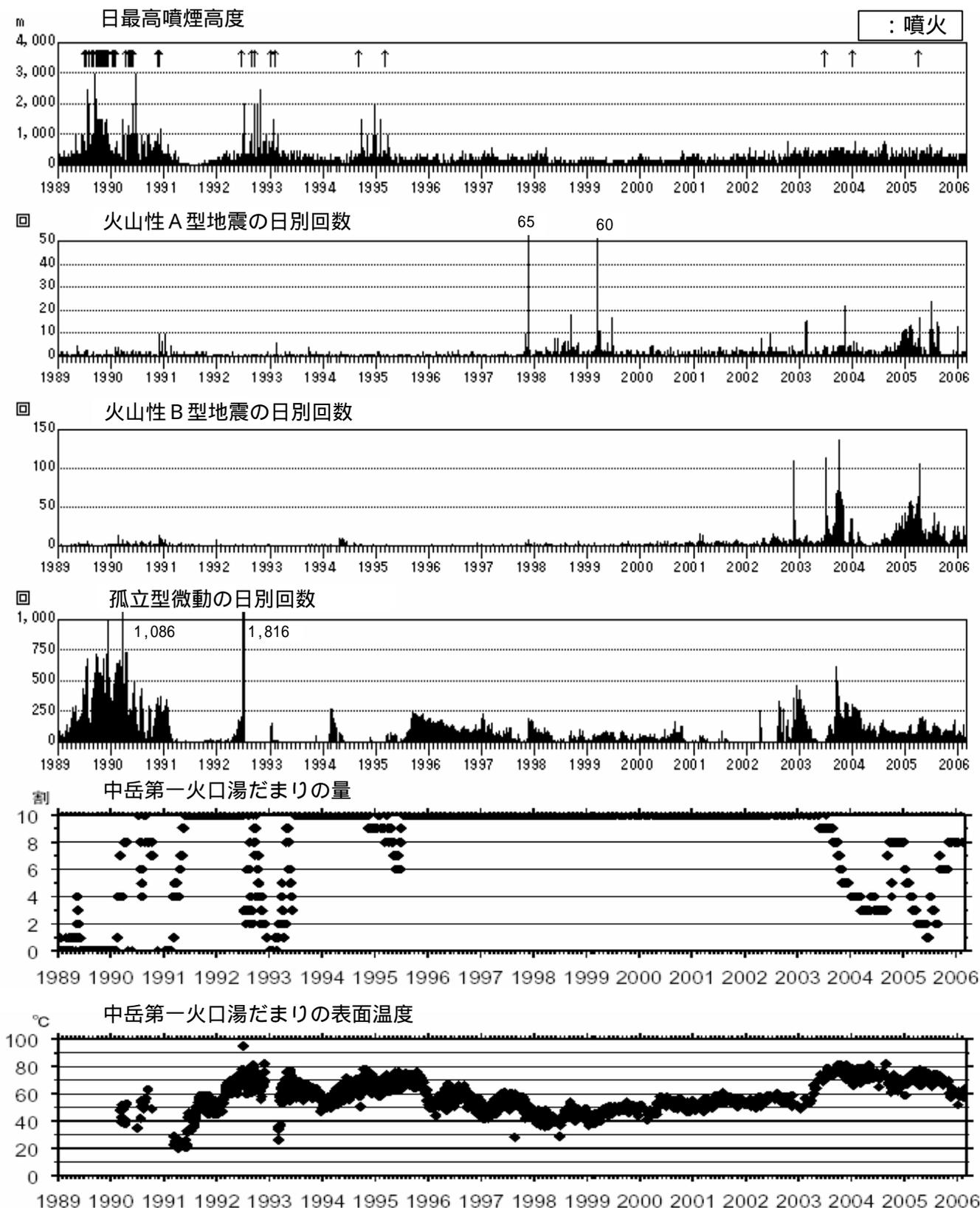
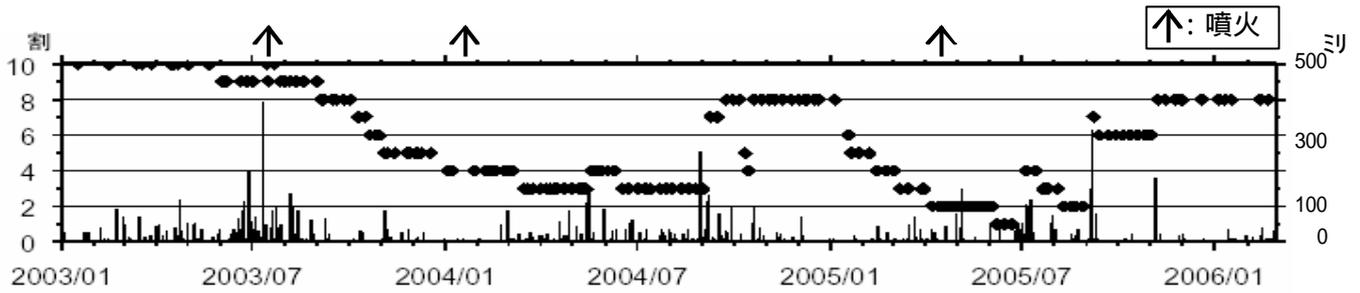


図 1 火山活動経過図(1989 年 1 月 1 日～2006 年 2 月 28 日)

噴煙の状況に変化は認められず、高さの最高は 400m でした。  
 火山性地震の発生回数は 1 月よりやや増加しましたが、孤立型微動の発生回数は 1 月に  
 比べ減少しました。

中岳第一火口湯だまりの量及び阿蘇山測候所における日降水量



中岳第一火口湯だまりの表面温度

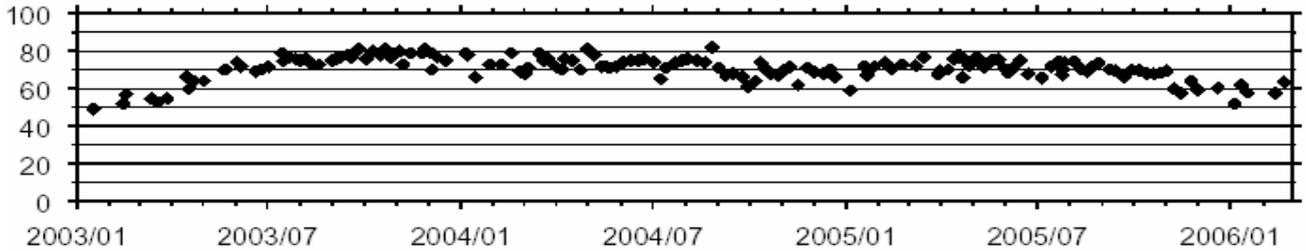


図 2 火山活動経過図(2003 年 1 月 1 日～2006 年 2 月 28 日)

湯だまりの表面温度は 58～63 とやや低い状態で推移しました。

湯だまりの量は約 8 割と変化ありませんでした。

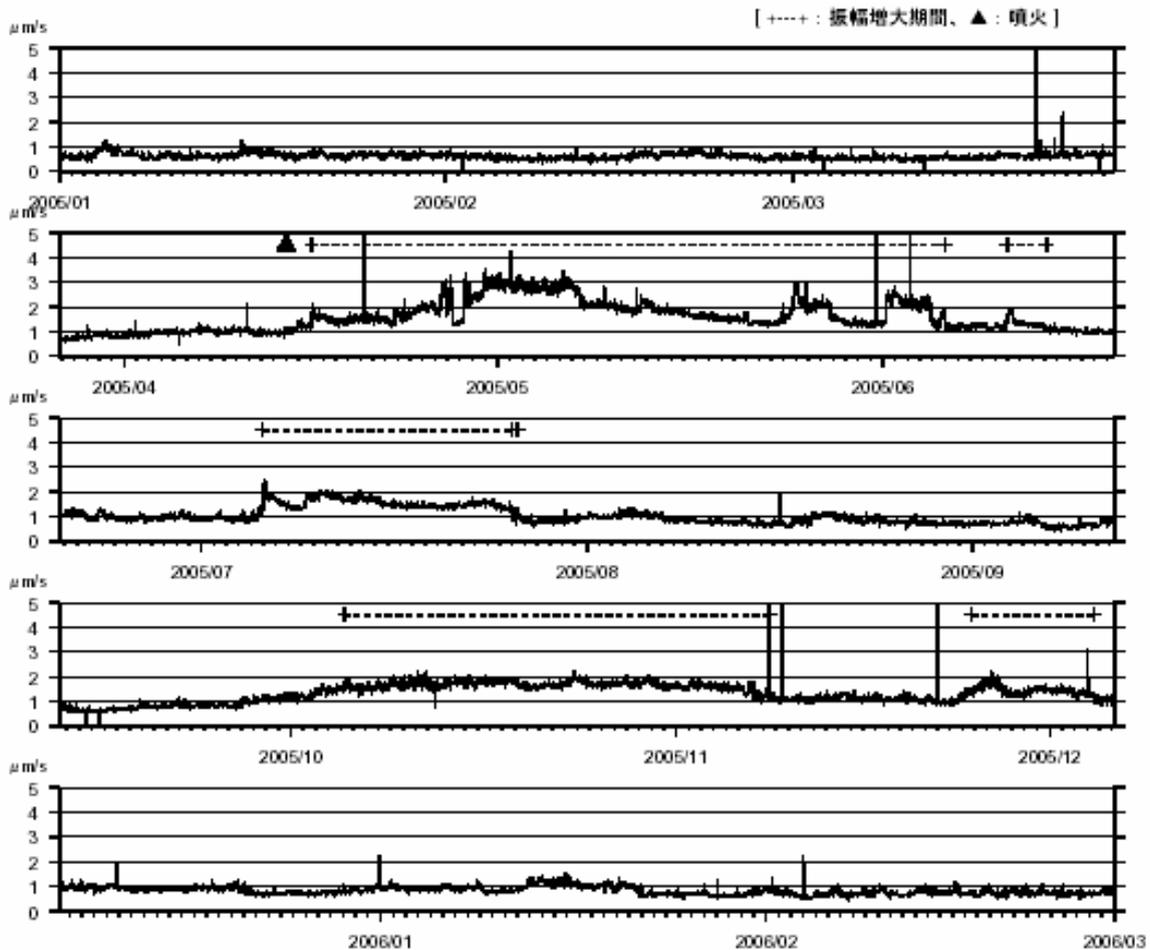


図 3 30 分間平均振幅の時間変化(A 点南北成分)(2005 年 1 月 1 日～2006 年 2 月 28 日)

2005 年 12 月 21 日以降、火山性微動の振幅は小さくなり、その状態が 2 月も継続しました。

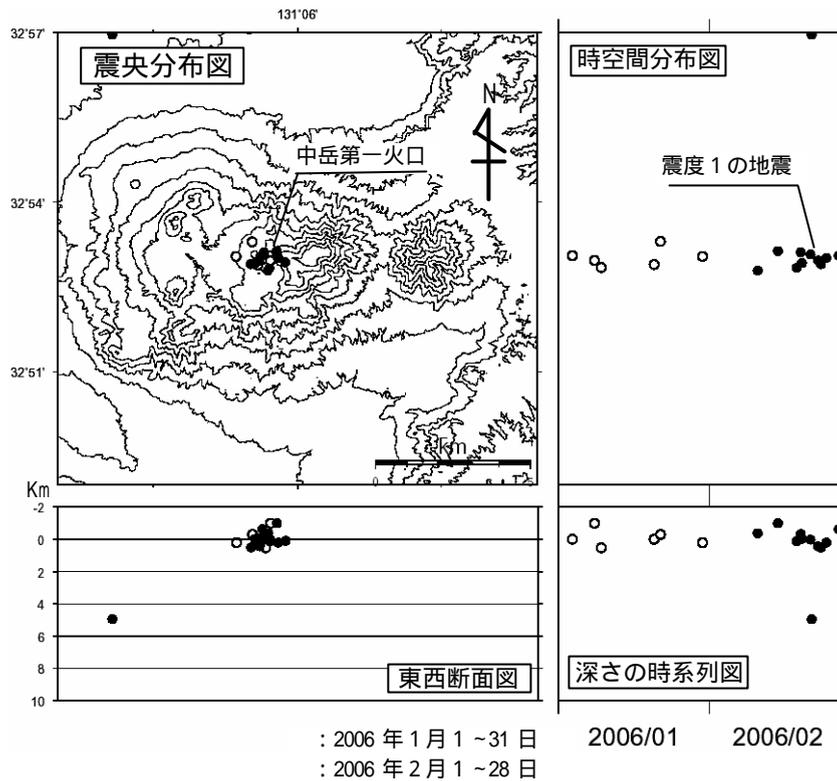


図4 火山性地震の震源分布(2006年1月1日~2月28日)  
 火山性地震の震源は、中岳第一火口付近のごく浅い所に求まりました。  
 (本資料は、防災科学技術研究所、京都大学、気象庁のデータを用いて作成しました。)

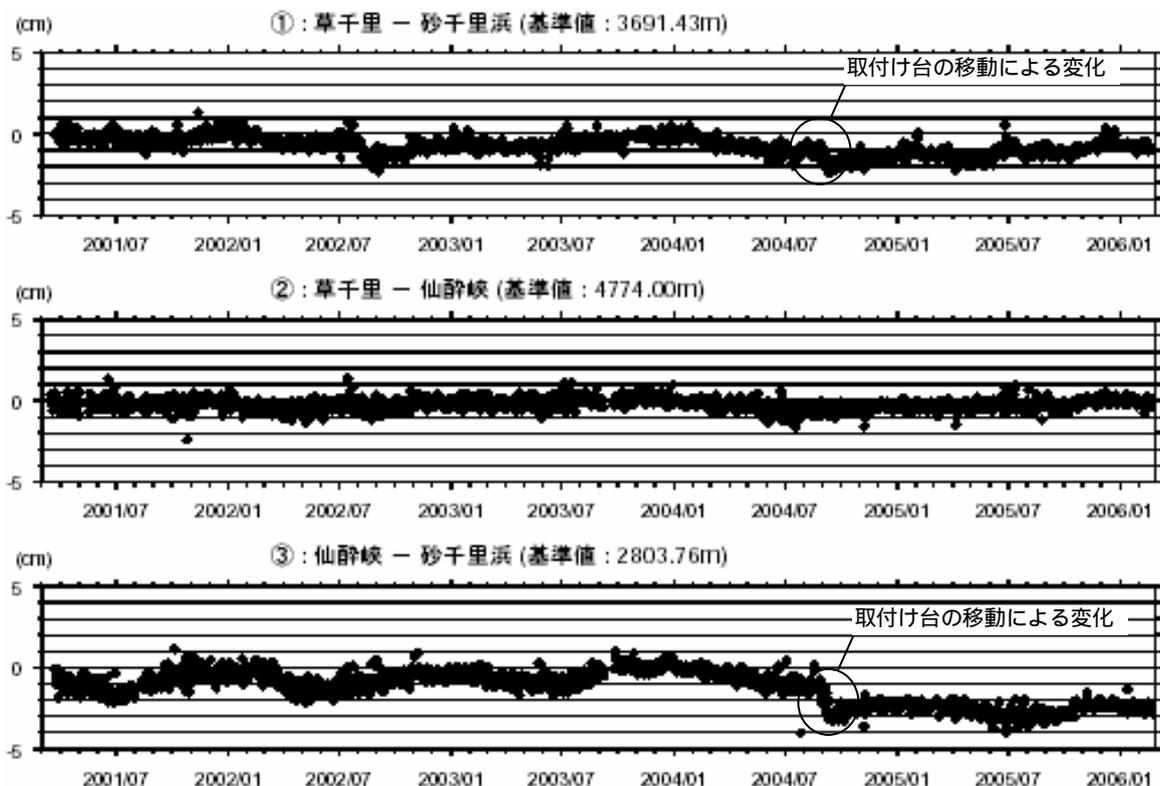


図5 GPSによる基線長変化(2001年3月15日~2006年2月28日)  
 各観測点間の基線長には、火山活動に起因する変化はありませんでした。

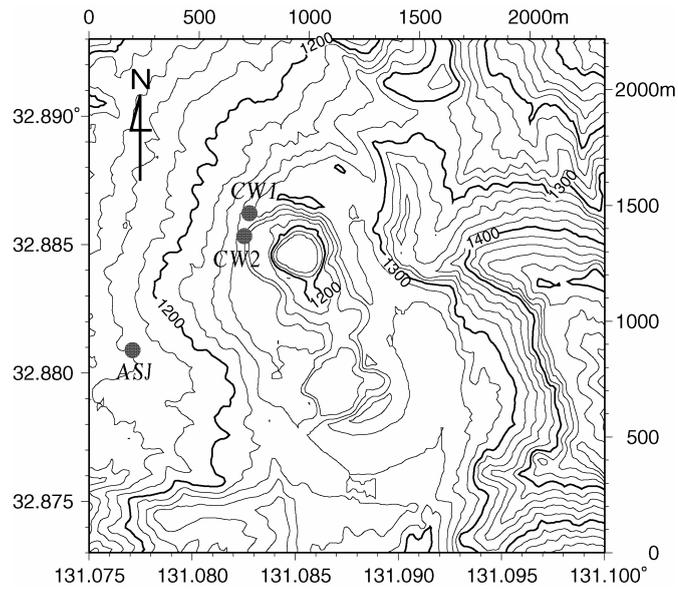


図 6 全磁力連続観測点配置図

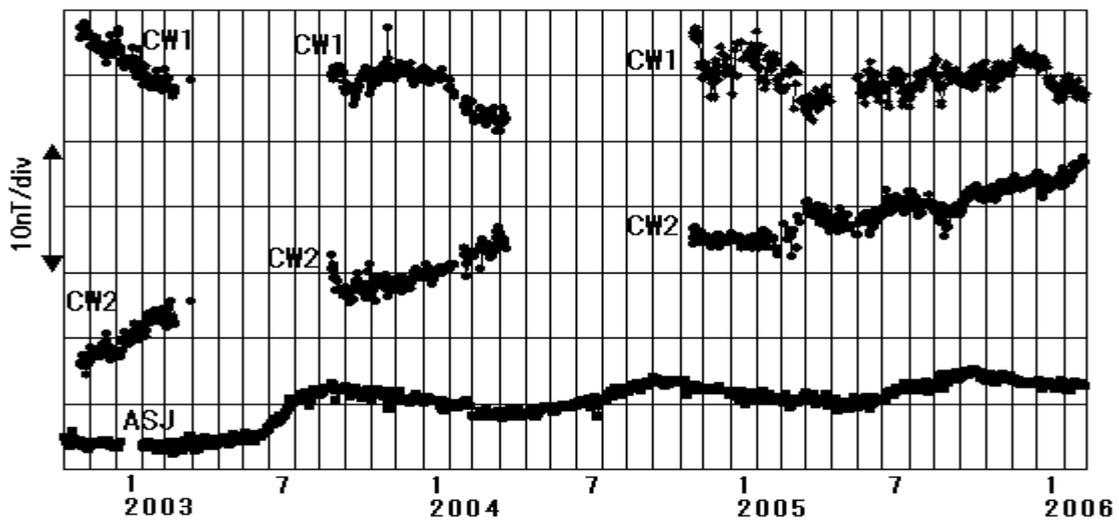


図 7 全磁力連続観測の結果 (2002 年 11 月 ~ 2006 年 2 月)  
火山活動によるとみられる変化はありませんでした。

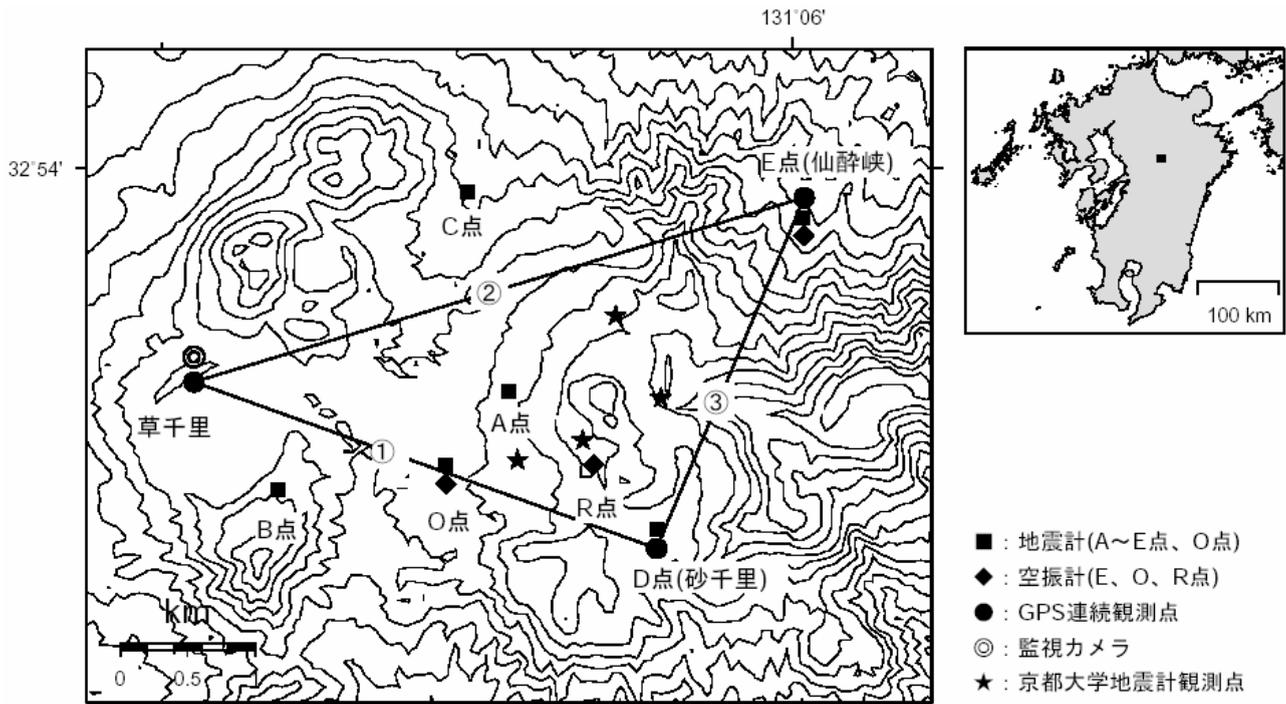


図8 観測点位置図